

# FIM Asia Road Racing Championship2015

ROUND1 Sepang Int Circuit(North Track) , Malaysia

## 参戦報告書

- エントリー名 : TRICK STAR RACING
- 監督 : 鶴田 竜二
- ライダー/ゼッケン: 山本剛大 (#11)  
兵藤龍之介 (#12)
- 開催日/サーキット: 2015年4月18日(土)~4月19日(日)  
Sepang Int Circuit(マレーシア)
- マシン: Kawasaki Ninja250
- 結果: 山本剛大 / レース1:決勝優勝 レース2:決勝4位  
兵藤龍之介 / レース1:決勝5位 レース2:決勝5位



TRICK STAR Racingは、今年からAsiaRoadRacingChampionshipに新設されたプロダクション250ccクラスにマシンKawasaki Ninja250で参戦いたします。

ライダーは若手だが既に実績のある山本剛大選手22歳と 成長著しい兵藤龍之介選手 15歳を起用。

## 【4月18日(土) 予選】

Qualifying 15:20~15:50

天候:晴れ コース:ドライ 気温:32℃ 湿度:28% 路面温度:56℃

予選が開始されたと同時にピットロードから飛び出すようにコースイン。やはりトリックスターの2台をマークする選手が多く、さらにスリップを使いタイムアップを図ろうと駆け引きが行われる。

そんな中、山本剛大選手は、3周目に16秒41を記録し

前後のマシンを確認しながら16秒台を何度も記録する。

一度ピットインし周りの状況を把握しピットアウト。集中力が途切れることなく、2周目(計測1周目)に16秒162を記録し2番手。

一方、兵藤龍之介選手は集団の中で自己ベストタイムの16秒961を記録し8番手で予選を終える。



## 【4月19日(日) 決勝日】

天候:晴れ コース:ドライ 気温:28℃ 湿度:40% 路面温度:32℃

決勝Race1 10:40~16LAP

決勝は山本選手は2番グリッドから、兵藤選手は8番グリッドからのスタートとなる。

#11山本剛大選手は

スタート後、出足が良いのかHONDA車2台に先行されるが、1コーナーまでにNinja250はスピードの伸びが良くホールショットを奪い1周目トップで戻ってくる。2周目の1コーナーで#24がインを刺してくるが3コーナーアウトから抜き去りトップに浮上。

山本選手と、#24の2台が後続を引き離す。

その後、ラストラップまで仕掛けてこない。ラストラップの7コーナー進入で#24がインに飛び込んで先行するが、最終コーナーからゴールラインまでの車速の伸びが勝っていることを知っていた山本選手は、冷静にスリップから抜き返し、ARRCの新しいカテゴリー アジアプロダクション250ccクラス、初戦のウイナーになった。



#12兵藤龍之介選手は

スタートを少し失敗し、1コーナーは10番手付近で通過するが、

1周を終えるまでに8番手まで挽回する。2周終了時点には6番手に上がる。3番手争いが7、8台の集団になり少しのミスがポジションダウンを招く。

5周目の6~7コーナーで4番手に上がる。

6周目3番手にあがるが最終コーナーで4番手に。

7周目に再度3番手に上げ、14周目までに抜かれても直ぐに3番手までポジションを回復させる。

残り周回が少なくなり各車のポジション争いが激しくなる。

ラストラップに6番手に入るが3~4コーナーで2台抜き4番手に上がる。

7コーナーでインに入られるがゴールまでに抜き4位でゴールする。

モニターでは4位でゴールと表記されていたが写真判定の結果兵藤選手はで5位チェッカーとなった。





## 【決勝】 Race2 15:35～ 16LAP

#11 山本剛大選手は  
スタート後、1コーナーはトップで通過。  
1台に抜かれるが直ぐにトップを奪い返す。#11山本とHONDA車3台合計4台のトップ集団になる。12周終了までトップを維持する。  
7コーナーで1台にインを突かれ、さらに後続の2台に抜かれ4位にポジションダウンするが、14周目4コーナーで1台を抜き15周目にストレートで2台を抜きトップに。  
ラストラップ、案の定、7コーナーでインを刺してきた。  
そして山本選手のラインが塞がれる。行き場がなくなり止む無くコースアウトしてしまう。転倒は免れるものの4位でゴールとなった。

#12兵藤龍之介選手は  
今回はまずまずのスタート。7番手で1コーナーを通過する。  
3周目の1コーナーで前車を抜き6番手に上がる。  
6周目にはストレートの伸びを活かし5番手に上がる。その辺から5位を2台で争う。  
9周目に3コーナーでリアタイヤが大きく滑りペースを維持するのが苦しくなる。ライバルも同じようにタイヤが厳しいのか仕掛けてこない。  
しかしストレートで抜かれ6番手に。  
ラストラップの最終コーナーから立ち上がりで前車のスリップを上手く使いゴールラインまでに抜き5位でゴールする。

### 【ライダー 山本剛大選手 コメント】

#### Race1 優勝

2番グリッドからホールショットを決め、2周目の1コーナーで抜かれましたが直ぐに抜き返しトップに立ってからはトップグループの台数を減らす為に積極的にプッシュをして、レースをリードし続けました。落ち着いて対処しトップでチェッカーを受ける事ができました。3年振りの優勝だったのでとても嬉しかったです。新しいクラスのオープニングレースで優勝できたこともとても良かったです。

#### Race2 4位

レース1同様ホールショットを決めてそのままトップ集団を減らす為に集団を引っ張りました。しかし午前中のレースとは違い60℃近い路面温度の影響で、タイヤがかなり滑りやすくなってしまい思うようにペースを上げることが出来ませんでした。その結果集団は自分とタイホンダの3台となりました。

トップをキープし続けましたがラスト4周の最終コーナーで押し出され4位に落ちました。

しかし直ぐにトップを奪い返し最終ラップはトップで入ることができました。バトルはレース1同様最終コーナーの手前でアピワット選手が仕掛けてきました。予想していたのでなんとか避けることができ接触転倒は免れましたが行き場を失いコースアウトしてしまい後ろの2台にも抜かれ4位でチェッカーを受けました。

これからも、自分のレースが出来るようもっと速くなります。

最後にオフシーズンに何度も自分のリハビリとマシンテストを重ね、素晴らしいマシンを造り上げてくれたチーム 僕らのレースをいつも応援してくれているスポンサーの方々 ファンの皆様、本当にありがとうございました。

次回のレースも今回のレース1同様 優勝という結果でお返しができるよう頑張ります！！





#### 【兵藤龍之介 コメント】

Race1 5位

スタートで失敗してしまったため、12番手まで落ちてしまいました。

でもなんとか3番手まで上がる事が出来ました。ポジションをキープする事が出来たものの、残り2周で集団にのまれてしまい5位でのチェッカーとなりました。

Race2 5位

初めはなんとかトップ集団にいたものの4周目ぐらいに最終コーナーでリアタイヤが滑りトップ集団から離れてしまいました。初めは追いつこうとタイムを上げていったのですが、残り3周ぐらいで凄くグリップが悪くなり、だんだんタイムが落ちてしまいました。それから後ろのライダーにストレートで抜かれましたが最終ラップの最終コーナーでスリップにつき、接触もあったもののなんとか抜くことができて5位でチェッカーを受けることが出来ました。このレースで自分への課題が沢山出来たので次のレースまでにその課題をクリアできるようにしたいです。最後にレースをいつも応援してくれるファンの皆様、スポンサーの方々、そしてマシンを造ってくれたチーム、本当に有難うございました。次のレースでは優勝できるように頑張ります。

#### 【監督 鶴田竜二 コメント】

アジア プロダクション250クラスに参戦する事が出来、とても光栄に思っております。

その初のレースで、レース1で山本剛大選手が見事に優勝してくれてとても嬉しく思っております。

彼を抜擢して間違ってたか確信出来る、とても素晴らしいレースでした。

レース2では主導権は山本選手が握っていましたが、最終周でラインを塞がれ、行き場がなくなりコースアウトしてしまい4位でチェッカーとなってしまいました。

経験豊富な山本選手だから転倒を免れ、すぐにコース復帰しチェッカーがうけたのだと、怪我がなくチェッカーをうけたことにホッといたしました。

後にチームは執拗にコース外に押し出そうとする危険行為として抗議いたしました。残念ながら認められませんでした。今後、アジア選手権にふさわしくないような行為には断固として我々は抗議し、もっと質の高い大会になることを望むと同時に協力していきたいと思えます。

兵藤龍之介選手もアジアの選手の激しい戦いに対し、怯む事無くセカンドグループの先頭争いを繰り広げてくれました。レース2のゴール直前では5位争いが白熱し、相手選手のマシンが突進してきたことで、兵藤選手がコース外に押し出され芝生の上を走り何とか5位を死守しゴールをしてくれました。

まだあどけなさも残る表情からは伺えないしっかりしたレーシングスピリッツは兼ね添えている選手で毎回走る度に自己ベストを更新し、成長し続けているのは確実に見て取れました。

やがて彼も山本選手に肩を並べトップグループで活躍してくれるよう期待できるレース内容だったと思えます。

流石にアジア選手権だけあってとてもレベルが高く、激戦である事を改めて認識させられました。

当初予測も付かないアジアのレベル、レース展開、そこに対して自分たちがどう挑んでいけばよいのかという不安がありました。日本をはじめ世界を取り巻くモーターサイクル業界の発展に対してこの250ccクラスはとても重要だと思え、我々は早い時期から国内のサンデーレースやイベントレースに力を入れておりました。

そんなこともあり、初戦に向けて準備が早くでき、少しアドバンテージがあったかもしれません。

今後は、各メーカーが凌ぎを削って参戦してきますのでより激戦が予想されます。

我々ももっとレベルを上げて戦えるようチーム一丸となって取り組んで参ります。

最後になってしまいましたが、いつもご支援して頂いているスポンサー様はじめ、ファンの皆様応援ありがとうございました。